

「勉強」という行為を理解させることの必要性

NHKニュースを見ていた。

ある県で行われていた小学生のロボットコンテストのようすが出ていた。

小さなロボットたちが、ペットボトルのふたをいかに多く敵の陣地へ送り込むかを競うゲームである。

陣地の境には、ふたが乗り越えなくてはならない高さの板があり、「ネット」の働きをしている。

ロボットは、ふたをつまむタイプ（ザリガニのように見えた）やふたをすくうタイプ（ちりとりのように見えた）ものなど様々だった。ニュースでは次のような内容を述べていた。

- ・子供たちはスティックを巧みに操作して楽しんでいた。
- ・主催者は早期に先端技術に触れさせたいようだ。
- ・保護者はこのコンテスト等へ参加させたがっているようだ。

さて、本題に入る。

子供たちは、このロボットに代表されるような先端技術の世界へ入っていくために、「勉強」をすることになる。また、保護者は子供に勉強をさせるようにする。

ここで、自分の問題意識は、勉強がこのロボット技術のどのような側面とつながり、保護者が、教師が、このつながりを理解し、子供に説明することができるかということである。つまり、

※一例として

→設計	→力学、機械工学、設計工学	→理科、数学、技術
→制御	→電子工学、機械工学、プログラミング	→理科、数学、技術、英語
→動力	→電気工学、電子工学	→理科、数学、技術
ロボット →材料	→力学、材料工学、加工	→理科、数学、技術家庭
→意匠	→工業意匠、設計	→技術家庭、美術、数学
→デザイン	→工業デザイン、産業デザイン	→美術、社会、技術家庭
→作戦	→経営工学、方法論	→数学、社会、体育、音楽
→基礎	→コミュニケーション、リテラシー、調査	→語学、数学

※筆者が考えたもの

のような体系説明である。

このようなつながりを子供たちが理解、納得して教科を学ぶことができれば嬉しいことである。

子供、保護者、社会が学ぶ意義、体験する意義を理解し、学校を暖かく応援、バックアップしていただきたいものである。

最後に、このような最先端課題には、勉強だけでなく、日頃の「遊び」、「読書」、「興味関心による活動」が大きく関わっていることを補足する。学校時代は勉強が苦手でも、社会に出てから伸びる人材がいるし、その逆もある。

総括すると、興味を持って楽しく一生懸命生きることなのではないでしょうか。